

平成 26 年度 第 1 回 静岡市市民活動促進協議会 会議概要

- 1 開催日時 平成 26 年 4 月 14 日（月） 午後 2 時 00 分から午後 4 時 00 分
- 2 開催場所 札の辻ビル 審査会室 3
- 3 出席者 <出席委員>大西会長 山本副会長 遠藤委員 大棟委員 黒田委員
小林委員 津富委員 原田委員 日詰委員
<欠席委員>井野委員 増田委員
<事務局> 秋山市民生活部長 杉山男女参画・市民協働推進課長
長田主幹兼係長 池田主査 平野主事
- 4 傍聴者 なし
- 5 議事
 - (1) 平成 25 年度の協議結果の確認について
 - (2) 第 3 次市民活動促進基本計画の「施策の柱」について
- 6 会議内容要約
 - (1) 開会 秋山市民生活部長 挨拶
 - (2) 議事 大西会長挨拶

① 平成 25 年度の協議結果の確認について

事務局 平成 25 年度中の協議結果（4 回開催）について概要説明。

② 第 3 次市民活動促進基本計画の「施策の柱」について

事務局 第 3 次市民活動促進基本計画の「施策の柱」の考え方について説明。

山本副会長 事務局からの説明にあった「やってみる」・「深める」・「つなげる」・「知らせる」の 4 つ柱はバランスが良いという印象を持ちました。

この 4 つを 2 つの軸に分けられる。スタートすること、「やってる」ということと、持続してより「深まる」といこう。これが一つ目の軸であると思います。

「つなげる」・「知らせる」が二つの軸。これもそれぞれが、両輪だと思う。まず発信し、自分達が何者で何をを目指すのか、誰のためにやるのかが

重要。

ということで知らせて交流する。それをやって初めて繋がれる。協力できる。この4枚の葉っぱで同列に見えつつも、二つの両軸が重なってできて骨格としてとっても良いという印象です。

津富委員 進め方について質問です。柱の数は4つというのが基本ですか。どれくらいの本数が常識的なんでしょうか。

大西会長 4本ないしは、もう1本。入りきらないような具体的な政策等があれば5本でも良いと思っています。

津富委員 条例に書いてある3つの柱は固定で、あと一個選ぶみたいな感じでしょうか？

大西会長 そうですね。今までのワークショップで出てきたアイデアは、これにすべて収まりますので、今のところ4本となっています。

津富委員 感想ですけど、ここに書いてある1～4というのは、どちらかと言えば「やってみる」というのが最初になっている。やってみるくらいの気持ちがある人が最初について、それからその人達の活動が頑張っていくたり、他につながっていくたり、その人達の活動を知らせる構図になっていると思います。

気軽に関われる入口、敷居が低くて、別に市民参加活動しているんだという意識がなくても関われる。一番下の「交流の場づくり」があるが、そこに行くと「ちょっと話が盛り上がってそこで何かできる」とか、都合良く集まれる場所で色んな話ができたり、アイデアを出したり、最初は趣味や遊びでも、例えば原田さんが作られた「くれば」のような気軽に入っていけるような入口があると良いと思います。

そのうちに知らず知らずのうち「全員参加」になっていくと思います。

あるいは、すごく激しい自分で活動をしなくても意見だけは言える。といった様な参加の形もあると思います。

原田委員 自分達の市民活動の広報パンフレットにも「会って」・「繋がって」・「磨いて」・「輝く」の4つがあります。4つが符合して面白いと思いました。

順番を考えるとまず知らせて、市民をつなげて最終的にそれを深めていけるのだと思う。そういう順番に並び替えることもできると思いました。

ただ、内容については、もう少し詰めるってということから始めるべきです。この中の1番重要なのは何かということ議論してから、順番に並べた方が良いと思っています。

日詰委員

NPO法が施行されて15年が経ち、日本のNPO法人もそれなりに力を持ってきていると思うが、力のあるNPOと、そうでないNPOの格差が相当激しくなってきた感じています。

もう一つは、NPOに非常に興味を持って頂いている方と、そうでない方々との間にバリアみたいなのができていて、色々な方々が、今、津富委員もおっしゃいましたが、気軽に入れるNPOがあっても良いと思います。

例えば、1～4でいえば、知っていただくことが、最初にあっても良いと思っている。知っていただいて、あるいは触れたり、市民活動あるいはNPOの活動を知っていただいたり、実際に触れていただいたり体験したりするという事です。

簡単な入り口のところで体験していただけるようなものがあって、実際にやってみたりとか、さらに深めたり、それにつながっていけるようなそういう個人レベルのものから組織の方に移っていく仕立てがあってもいいのではと思います。

小林委員

私は日頃市民活動団体として自分達が活動している中で、「情報の発信能力」というのがあまりないので、発信する、この中でいうと「知らせる」ということ、自分達のやっていることを市民の皆さんに知っていただけるものが、もっとできれば良いと改めて感じました。

黒田委員

私もこの4つの切り口は良いと思います。

やはり「知らせる」部分が重要なという考えで、「いろいろな情報がここに行けばある。」っていうこともそうですが、「こんなに気軽にできる。」っていうことを示すことも必要であると思う。施策もこんなものがあるとか、市民活動の先輩も活かしているとか、紹介しては良いと思う。

その次に自分がやりたいっていうことをグレードアップするという事だと思う。色々な形でもっともっと気軽に構えること無く、市民活動ができることを知らせることが行政として一番必要であると思います。

それから、やりたいっていう事については決してハードルが高いわけではなくて、みんな難しいと思っていたのに「みんな気軽にできる。こんな風に取り組んでいる人がいる。」ということを知らせる。そのような

ことが重要だと思います。

施策の柱については、キーワードとして、分りやすく良いと思ういます。

大棟委員

4つの施策の柱がありますけど、私はこれで良いと思います。

先程、日詰委員のお話にもありましたが、すでに市民団体は沢山あり、力のある団体、あるいは汲々としている団体もあるかと思っています。

「今まであった団体を強化する」あるいは「拡大していく」という、そういう施策というものも必要なのかなと思います。

それから、市民活動の間口を広げて新しい団体を多く作っていく。その中で当然消滅していく団体もあるだろうが、なるべく多くの団体を育成するってことが大事だと思います。

施策の柱の順番としましては、4番を最初に持っていくという考え方もあると感じました。

遠藤委員

私でしたら「知らせる」・「飛び込む」・「つなげる」にします。

大西会長

「飛び込む」というのは、どういった意味ですか？

遠藤委員

「やってみる」という意味です。とにかく知らないことを。

極端に言いますと「黒塗りの車で送り迎えされていた立場から突然、違うところに入ってきた社会的な地位のあった方」は戸惑いがあると思います。例えば、三保地区の活動に最初に参加してみたときには、「これでいいのかな？」、「僕にも何かできるのかな？」、「なんか恥ずかしいかな」とか感じていらっしやると思います。

ただ、その方たちは、外国語やその他の非常に高い能力をお持ちで、それを活かしたいと思っていらっしやいますが、とにかく最初に知らない、そういう場があると知らない、参加もできないと思います。

また、市民活動団体側の「受け止めてあげるから大丈夫よ」という感じも大切だと思います。

大西会長

施策の柱についてのご意見が多かったのですが、ありがとうございます。「条例で基本計画とはこういうものだと指針が書かれていて、それにそってこの順序が1 2 3とできていると思うんですが、それは基本計画で順序を変えたりという記載は可能なのでしょうか？」

事務局 計画書上で順番の入替は可能。より分りやすく、伝わり易いものを作りたいためです。

大西会長 皆さまからのご意見を整理すると「施策の柱の数は、4本でバランスがとれている。」ただ、「順序は伝わり易さを考慮して検討が必要。」ということが多く出されました。

それ以外では、「敷居を低くして、今まで関心を持っていなかった人達も気軽に飛び込めるようにする。」というご意見も多かったです。

その他、何かご意見ありますか？

山本副会長 先程、津富委員もおっしゃていた「知らせる」の交流の場作りがやってみるに自然につながるといいう形がとても良いと思います。

4本の柱が循環して螺旋状につながっていけば良いと思います。

この4つの施策が滑らかにどんどん上昇していく様な、それすらも市民どこかの誰かがやってくれるのではなく、市民の手でやるのが理想ではないかと思う。4つとは違う時間軸でよりつなげていく働きが入ると立体的で動きのあるものになるのではないかと思います。

大西会長 今まで時間軸についての話は無かったが、基本計画のなかでどこまでの時期が盛り込めるのかっていうのがあるが、大きな流れとしてはこの循環で。

津富委員 体系図の左上にある「静岡市市民活動の促進に関する条例」の基本理念のうち、(2)は「対話」について、(3)は色々な人の「参加」について。

「交流の場づくり」に近いと思います。基本理念を実現しようとしていることが柱の中に入ってくるといいなあと思っています。

原田委員の団体のお考えも「会う」から始まっているんですね。「会う」・「つながる」・「磨く」・「輝く」となっていて、つなげるとつながると似ていて、磨くと深めるが近いのかなと思う。知らせるといのは知らせる人が先にいて広めていくというイメージだけど会ってみると何かはじまるというのが良いと思います。

私の活動している団体は就労支援を行っておりまして、ネットワークという名前がついています。実際には理事長がいますが、中心がないというのは非常に重要でして、私が消えても頑張ってくれるっていう。たとえば竹とか覆い茂っていく時に最初の本の竹はどこかに生えるんで

しょうけど、最初の生えた竹はどれかわからなくなりますよね。全員参加のまちづくりも森の話がありましたけど、どこが中心かわからなくなるようなネットワーク形成ができていくと強いものだと思うのが一点目です。

それに関連する右側の具体的な施策の話で、本当のところ僕は、原田委員がやられたようなものをもっと沢山できると良いなと思っていました、ご自身の団体で努力をされたと思います。

金沢の学生のまち交流館という施設を金沢市が持っていますが、「学生がしたいこと・ができること」と、「市民がやって欲しいこと・やりたいこと」をマッチングさせて活動を展開しています。

色々な団体がそこを使って、また色々な要望に対して答えることを単独の団体ではなく色々な団体が、その場を使って市民とつながっていくような、交流館的なニュアンスでお互いが使えるような場づくりがあるといいなと。特にこの「交流の場づくり」というのを見ているとそう思います。色々な人とお互いが出逢えるようなスペースがあるといいなと思いました。

大西会長

静岡市の市民活動センターが。番町と清水にありますけど、これだとフォーマルで硬い感じですか？

津富委員

お互いにイベントというか、ミーティングというか、オープンな活動場所ですね。ミニシアターやったり講座をやってみたり、色々なことをやっていると思いますが、そこで会議を直接しちゃうんじゃなくて、もちろん会議スペースはあってもいいのですが、どちらかというところ「交流スペース」、市民のために色々な交流ができるような。居場所に近いものですけど。

大西会長

今の津富委員からのご指摘をもう少し掘り下げたいと思います。

1つは「場をつくる」には、どうすればいいのかということ。

もう1つは、新しい場をカチッと作らなくても、今まであるものを活用していく、そういう「場の提供」が非常に重要であるということだと思いますが、何かご提案はありますか？

日詰委員

今、津富委員がおっしゃっていたことと同じ様な事を私も考えていました。

例えば日本では60年代に「コミュニティ政策」が行われましたが、そ

の時「拠点づくり」が取り組まれました。活動の拠点を作っていくということでコミュニティーセンターとか公民館が沢山作られました。そういった経験が市民活動でもあったのではないのでしょうか。

例えば、静岡県では顕著だと思うんですけど、行政が主体となって市民活動センターを作ったということで、最初は「場づくり」から入っていった。

私も「呉服館」で7年ほど、その運営をやっていたんですけど、それは県のひとつの施策として、もし行政機関が市民活動に向けて、いわゆる拠点施設を作るとして、こういうもタイプのものがいいんじゃないかというモデル拠点だったんですね。

それで、より大きな出会いのスペースということで、誰でも自由に入ることができ、そこで集まれる。事実そこでは色々な団体の方が出会いながら活動が行われてきたんですけど、そういうものが、今は無くなってきている。

つまり「場の提供」ということからむしろ「実質的な課題解決に向けてのつながり」に向けて支援をしていこうという、ソフト系のところへシフトしてきていて、たぶん市もそういう方向に近いものではないかと感じていますが、とはいえ県の施設に比べれば市の施設の方が色々な団体が入り活動ができるものとなっています。

先程、津富委員がおっしゃった金沢市の取組みの様な仕掛けにはなっていないんですね。人が行ってそこで話し合うだけになっていて、そこに活動を持ち込んで出会えるというそういう仕掛けには全くなっていない。

金沢市の仕組みというのは非常に面白いと思うのですが、そういうような自分達に関心を持ってやっていることを、オープンにして、そこで何か関心を持った方が出会ってそこで何か新しい仕組みが出来上がってくような、そういう意味では施策の柱の（４）の「交流の場づくり」というのは第三次計画を考えていく中では、大事な役割を果たすのかなという感想を持ちました。

大西会長

市の取組みとして、今年3月に静岡駅地下広場で行われた「啓発イベント」について、事務局からご説明いただけますか。

事務局

「市民活動レビュー in Shizuoka 2013」についての概要を説明。

- ・開催：平成26年3月16日（日）
- ・目的：市民の皆さまに市民活動を身近に感じていただくため。

- ・実施内容：①NPOによる活動紹介・実演（10団体）
- ②NPOの活動を紹介したパネル展示（20団体）
- ③活動を紹介したチラシの設置・配布（50団体）

大西会長

そういった取り組みは非常にいいなと思います。

そういう「交流の場」とか「仕掛け」をもっと広めていっていけば、関心を持った人が、さらに市民活動にご参加いただけると思います。

原田委員

そのイベントに我々の団体も参加させていただきましたけども、パネル展示をしました。

静岡駅から出てきてほしい8割くらいは北口に回る。その内のまた半分以上は地下に回ります。私の観測の結果、「すごいな、これなら皆さん来てくれる。」と思って、自分はパネルから離れて見ていたんですけど、ほしい皆さん通り過ぎちゃうんですね。

NPOとか市民活動というのは普通の人には関心をもってもらえないのかなというのが実感でした。実際、自分としては通りかかった人をキャッチして、一生懸命引き込もうとしたんですけど、キャッチしようにも人が来ない。という残念な事になってしまった。こういうチラシも置いていましたが、5部だけ持って行ってもらえました。0ではなかったのですが、なかなか市民方の関心を引くのは難しいんだなと実感した。

ただ、そういうイベントはやっていかないことには伝わらないから、市のそういうイベント開催は良いと思いますし、継続的に僕等も参加していきたいなと思いました。

津富委員

つながっていくかは分からないのですが、「食べ物」があつたりすると違つたりするのでは。

原田委員

今回の市のイベントも音楽でやつたりすると人が集まってくる。

いろんな活動をアピールすることができればいいでしょうけど、形の見えないものを人に伝えるというのは難しい。モノを売るとかだったら、食べ物とかだったら一番分りやすいのですが。

津富委員

実際に団体運営をやっていると、場を持つ所ってひとつの持てるかどうかというのは、費用的にひとつの大きなハードルになります。

うちも最近、活動の場を持ちましたが、沼津市で家賃が20・30万取られてしまう。それはとっても大きなハードルで、行政の別の事業を受けていたからできたのですが、通常の団体はそれをできないと思うんで

すよね。ところが街の中で自分達の活動を知ってもらったり、あるいはそれこそ山本副会長の団体の活動が近いかも知れませんが、農作物作っている団体が展示即売してみたり、あるいは文化系の団体がアートを展示してみたりとか、とにかくちょっとしたアートスペースだとか音楽だとか映画だとか、ちょっと食べものだしたりとか、ということも勿論予約はしなければいけないけど、お互いの団体が借りて使える、そこまで自己負担すると大変なことになる場所、街中に実際に位置すると。

そういうスペースがあると真面目な座談会でもいいんですけど、僕は楽しいなあと思います。そこでまた交流ができてもいいと思いますし、そこに今日のスケジュールを貼ってあるとかイメージですね。

コミュニティレストランみたいな食事を出す人が交代するんですけど、ここはホストが交代していくようなイメージですね。

大棟委員

NPO 法ができた後に活動は熱気があったと思うんですね。いうなれば攻めの行政の体制をつくっていったんじゃないかなと思うんです。

その後で最近になりまして静岡市にも番町にある市民活動センターがありますけど、どちらかというと私が見る限りは本当に待ちの姿勢ですよ。こちらから行かないとなかなかというので、こちらで教えていただくものがあるかという残念ながら有りません。

どちらかというコピーを使わせていただいたり、そういう状況になっていく。だからもう少し、もう一度攻めの体制を作っていくという戦略と言うんですかね、打ち立てる必要があるのではと思います。1と2辺りがもう少しアクティブな活動をするべきじゃないかなと思います。

大西会長

例えば、どういうことですか。

大棟委員

例えば、ば駅を使ってやるとかっていうのもあるでしょうし、広場もたくさんあります。その辺の規制緩和をしていただいてもっと使わせて欲しいですね。非常に使いにくいです。市の施設はね。本当に市民参加を考えるならもっと敷居を低くと言うか。

津富委員

市の施設で悪いことするわけじゃないから、申請すれば使えるようにし他方が良いですよ。

大西会長

市で持っている施設で申請して使えないっていうことはあるんですか？

大棟委員 PRに使いたいのですが、結局、市役所の前の青葉公園の利用は、かなり敷居は高いですね。

事務局 ご利用頂いている「イベント広場」についきましては、以前は全く使えないような状況がありましたが、使用ができるような対応をしました、現状1ヶ月に1回くらいは、ご利用いただけるようにはなっています。
以前よりは改善されていると思います。

大西会長 「場づくり」で今、具体的な話の流れになってきていますが、団体さんが負担するのは厳しいとのことで、すでにある、市役所の持っている場所で利用できる所があればもっと活用していく方法を考えられるといいなと思いますが、基本計画で8年後という割と長いスペースですので、そういうところまで踏み込んでいくべきだと思いますが、何か盛り込みたいと思いますが。

日詰委員 今2つある市民活動センターの機能とは、ちょっと違うタイプの機能の場所。ですから、色々なパフォーマンスが出来たりとか、ミニシアター的なものとかちょっと違うコンセプトのものがあったら面白いかなと思います。

それに近いものとして作れるんじゃないかなと思うのは、たぶん再開発の対象地域になってしまうと思うんですけど、ミライエってありますよね。

あそこは伊勢丹にも近いですし、呉服町通りにありますし、集いやすいところじゃないかなと思います。

日詰委員 これはあくまで終わった話ですけど、市民活動センターを作るのであれば、青葉小学校の跡地が良いと再三言っていたんですけど、いつの間にかクリエイターセンターになってしまった。

ああいう立地が、市民活動に提供されてくると違った静岡の側面が出て来るんじゃないかなと思っています。なかなかあいった物理的な施設っていうのは市民活動のほうに向けるというのは難しいとは思いますが。

山本副会長 市民活動センターがありながら、ちょっと感覚的にずれているのはなぜだろう、もしくは、どうずらしていけば今に合うんだろうと考えてい

たんですが、市民活動という1つの看板を前に出しているとそのことに限定されてしまい、来ない方がどうしてもいるんですね。先程、津富委員がおっしゃっていた、お茶を飲むつもりで入ったらいつの間にやら触れていたとか。ミライエもすごくいいなと思っていて、お買い物で歩いて疲れて喉がかわいていて、カフェに行くのにもお金がかかるし、お水がただで飲めるらしいというくらいで行ったら情報に目が触れてだとか、そのぐらいのものが街中にあるといいなと考えていました。

ただ、物理的に費用的にもなかなかハードルが高いのであれば、逆に市民活動センターの委託業務の中にそういうソフト的な「街中のカフェ」で出張の何かをすとかですね、例えば、清水の駅前の銀座で、ベンチとか椅子を並べてそこで出張講座をやるという、どんどん街中に出て行くようなソフトを用意して、だんだんとじわじわと広がっていくっていう手なのかなと思いました。8年先を考えるとハードも夢でもないかもしれないですけど、8年につながる階段としてはそういう取り組みもあるのかなと思いました。

黒田委員

参考になるかわからないですけど、銀行に勤務して、まちづくりをしていた時に、我々最初に言っていたのは、静岡にないもの何かという議論の時に中心市街地活性化の時なんですけど、溜まり場がないという議論があって、渋谷のモアイ像とかああいうところについては溜まり場があってそこに情報がはしっていればいいということで、最初議論したのは御幸町の交差点の地下を地下広場にして、バリアフリーにして紺屋町までつなげようという話を出したら、まあ場所的に無理だということと、もう一個お金がないということでスクランブルの検証に入ってしまったので、我々が提案した地下広場を作って、そのところが自然に待ち合わせスポットになっていくというイメージです。

これはNPO活動のPRではなくてまちの活性化の情報発信だったんですが、まあ同じだと思います。

先程、原田委員からもお話がありましたが、歩いているところを立ち止まらせることは難しいところがあるんですね。やっぱり溜まっているところに情報が流れて行って、ところどころで時間がある方が興味をもって話しかけていただく、そのところをきっかけに、今あるような施設に引っ張っていくでないと。道行く人にNPO活動をもっと知ってねっていうのはなかなか難しいものですから、ステップを踏んで興味を持っていただくような仕掛けが必要なのかな。

市民活動もそうですが街の情報も色んな情報がとれるようなそんな形

のところはどこかにあればいいな。というのが感想です。

津富委員

先程、色々な団体が出てくると良いなと言っていました、私もその通りだと思っています。

市民活動センターの話で、市民活動センターの評価とか業務の中にどれだけ新しい団体を作り出せたかというのを入れた方がいいと思います。そうしないと、どうしても待ちの姿勢になってしまう。「今ある団体をどういう風に支援するか」という、そもそも中間的支援はそういうことなんでしようけど。

色々な人に来てもらって雑談してもらいながら、それできるよ、うち応援するよみたいな感じで、気さくにちょっとしたNPO法人まで取らなくてもいいですけど、活動を始めていただくような応援をしていくって、「こんな団体できたよ」みたいな、最初のうちはそのある程度の要件さえ満たせば、スタッフには5万円だけさし上げるとか、そんな仕組みがあったら、5万円もらえるんだしやっっちゃうかっていう人がいるかもしれない。そういうのはどうかなという話がひとつともう一つ。

今日は、街中の話ですけど、僕自身思っているのは例えば地区がありますよね。静岡。地区ごとの活動って重要だと思っていて、そういうのができるといいなと、多少は地区ごとの活動ってあると思いますけど、他所の市だったらまちづくり協議会とかあったりするけど、僕は中学校区くらいの単位で集まって酒飲んだり花見したりしながら、地域のボランティアをするみたいなものを流行らせて欲しいなと思います。

私たちは、ニート支援もやっていますから、結局こもっちゃって相談に行くところも家族もない。そうなっていくときに、もちろん引きこもりセンターとか行く人もいるんですけど、やっぱり身近な人であんた困っているのというような、昔井戸端会議で解決していたような場をもう一度再生しないと孤立化の問題は解けないので、地区ベースで色々な人が参画できるような、目がいきとどくようなボランティア組織をつくっていくっていうのを8年頑張ればできるんじゃないかなと思います。

以前、渋谷区の昔「ファインズ」って名前だった中学校のPTAのOBさんがつくった団体で、働き盛りの方ですけど、その中学校の地域の子どもの面倒を見ようって言って、学校に来ていない子どもの面倒から始めたっていった団体で、私はすごい尊敬しているんですけど、親ってPTAを終わると解雇されたみたいになっているんですけど、そこでもうちょっとまた頑張るかっていう仕組みがいいかなって、それをうまく育てていければいいかなと期待しています。

大西会長 地区ベースでの仕組みというのは非常に重要な点だと思います。

遠藤委員 「交流の場」ということをみなさんお話いただいておりますが、NPO っていうのも必死に明日の事を考えながらやっているような NPO なのでよくわからないですけど、今草取りボランティアで、名古屋から東京方面から草取りに来てくださる。私共も受入れボランティアの人達が道具を貸したりしてそこで話をしたり。観光地っていうのは非常に開放されている世界でして、今お話を聞いていてもっと観光地をそういう場に利用してもいいんじゃないかなと思ったんです。

先日のモニターツアーで、来たのが、外の地域の人じゃなくて近所の人ばかりなんですね。そうして非常に喜んでいて。何が一番良かったかって地域の人が説明したのが一番良かったと。

その後、その人達が草取りもやってくれるし、海外の通訳の人頼むと高いから悪いけど説明してくれないっていうのもやってくださる。

こういうのが生きがいにもなり、おそらく鎧を脱いでるし、遊びに来ているっていう地元の人もありますから、今三保の状態というのは溜まる場所というか一服する場所がなくて困っているんですよ。

今、とにかく観光のお客さんって商業ベースなんです。いかに地元の人があふれるか、まさしく市民が必要なんです。そこを上手くマッチングしていくと、私は物凄く面白いことになると思って、

観光地っていうのは世間との交流の場所、駅だけ、プラットフォームっていうのを駅だけに持って行かないで、そうすると片方も暇だしもう片方も暇なわけですから、ぜったいに良い出会いが見つかると思っています。

山本副会長 今、面白いなと思ったのが、観光地というお話があったんですけど、鎧を脱がすシチュエーションとか場所があるんだなって、気付かされたんですね。

例えば、うちの団体は環境で森が対象なんですけど、森も鎧が脱げる場所なんです。色んなしがらみ背負っていても、森と一緒に作業をしているとポロッと落ちて、地縁とか会社とか横じゃないつながりが生まれやすいんだろうなって気付かされたんですね。

観光もそうですよね。楽しい気持ちで行ってしがらみのない中で。

先程、お話のあった「学生」というキーワードもそうじゃないかなと思うんですね。若い世代、未来のある希望のある世代に、自分に何ができるだろうとわりと思惑を超えて思いやすい対象なのかなと。そういうもの

をどれだけ意識して、静岡に居れるかっていうのがこれからののかなと思いました。

遠藤委員

うちの団体が、一生懸命に自治会とか色んなところでやったとしても、バスの乗り入れの規制の問題の場合、あれだけ地域の生活道路が、あれだけ混みあうとストップしちゃいますし、参道の松も枯れるわけですね。そういうことが自治会や市民グループからかなりの大きい物で要望がありましたが、市民活動団体からの意見の窓口がないことは問題だと思います。

市民は十分に育っているし、街の見識も高いと思っています。

日詰委員

今の遠藤委員のお話で、例えば、今日の柱の話でいえば、市民活動や NPO の持っている政策提言とか政策提案機能ですので、それが大事になっていくんじゃないかと思います。

それがまったく今のところ政策決定過程に入ってこれないという問題があるんですね。そこを強化する仕組みを作っていかないと、いつまでたっても同じ状況だと思います。

地元のことを1番よくわかるのは市民のみなさんだと思うんですね。その意見がうまく政策提言という形で政策決定過程の中で入り込めるような仕組みをつくらないと、いつまでたっても遠藤委員がおっしゃったようなそういうことが上手くいかないですよ。

津富委員

実際にそういう仕組みを作っていかなければいけないと思います。意見を言えるだけっていう場作りをするような NPO が実は必要で、それがきちんと吸い上げた意見であれば法的に反映される仕掛けが必要なんだと思います。

参加の仕方いろいろあって、自分で体を動かしてっていうのももちろんいいんですけど、経験者だけでないと政策提言できないというわけではないので、そういうことも市民活動なんだという位置づけが私は必要だと思う。

そういう意味では最初に「会う」とか「場づくり」はすごく大事だと思っていて、そこでは、ただ楽しい話をしててもいいですけど、市の真面目なことをどうしようという話をしててもいいと思います。

横浜の子育ての NPO さんなんですけど、そのリーダーの方は若い方だけけど自治会に入って地域のママ友の会というものをつくって、ママ友で地域をお散歩するっていう。自治会をベースにしているけど、自治会の主だった

方とずらした世代で、交流を使うのに自治会を使っていて、自治会も色々な使い方があるよ、自治会の在り方を変えていこうよと。地区の仲間が仲良くなると子どもを預けられるとか話していて面白いなと思います。

日詰委員 静岡市の場合は、今、話題に上がっている自治会を中心にするコミュニティ活動と、市民活動といったものをどういう風に位置づけをされているのでしょうか。

結局、条例の中に入れてこないのか入れるのか、あるいは計画の中にどういう風に載せていくべきか、その辺りのスタンスってどうなのか。

自治体によっては、分けるってところがあるんですよ。条例とか計画は。分けた場合にも関わらず、また繋げなければいけないという議論がでてくる訳なんです。どういう風にお考えでしょうか？

事務局 現時点では、自治会活動と、市民活動自体は今完全には繋がってはいないという認識です。第3次総合計画の中で、入れているのは市民活動・市民協働が主体になってきています。

日詰委員 でも、地域に入り込めば、当然、不調和が起きちゃうんですね。

事務局 先程、まちづくり協議会という話がありましたけど、今、丸子で活発な活動が始まっていて、それをモデルに取り込んでいこうということはこれからできていくんじゃないかなと思います。

津富委員 自治会が先にガチっとあると他のこと始めにくくて。

大棟委員 私はNPOの活動と自治会活動を私は今一緒にやっていますが、そういう地域の中で、もし別々にした場合は、かなり自治会の活動をしている人達とNPOの活動をしている人達の色々な意見がでてきて、やり方や方向性の違いがでてきた時にどうなるかということもあります。

まちづくり協議会という形でしたら全てを飲み込んだ形でやりますから、たとえば三保の問題もそうですけど、全体のまちづくりの問題として松の問題とか。学生も含めて全部入って協議した場合は市議員さんとか市長さんも考え方が違ってくるんじゃないですか。

遠藤委員 今丁度過渡期で、ちょっと前までの自治会の方たちはどちらかということ静岡市役所の傘下の要素が強いと感じていました。今、60歳くらいの方達

だと、「そんな事言たってそんなものになるもんか。」という世代の人達になっている気がします。

私達の世代の下がどうなるかっていうと、そんな事はあまり考えないって考え方をしているようです。

事務局 確認事項ですが、1点目として、体系図を御覧頂いて、楕円で囲って左側に全員参加のまちづくりって決めていただいた、全員参加とはといく文言があります。全員参加の「全員」のみなさんのご意識、考え方の統一を図りたいと思っていまして、全員というのは市民個人、ボランティア団体、NPO、学校、こういったものの並びでいいでしょうか。

2点目として、先程(4)のところでは知らせると誰かから、誰かから誰かにという主従があるようなお話だったので、それを「知り合う」とかに変えるべきかです。

3点目は、「交流の場づくり」で想定しているのはネット上のお話で、ネット上の交流スペース、例えば、何かをして欲しい人、したい人が集まって、そこに企業の助成金募集とかが記載されてくる、ネット上の仮想スペースを考えたのですが、そういった施策というか事業というイメージでいいでしょうか？

山本副会長 ここで言う「自治会」ってNPOですか？

事務局 広くはNPOです。いま出ている中には入りますが、今みなさんのご意見として自治会があった方がいいんじゃないか、というようなお話をいただけるのであれば、まずはそれを大切にしたいなと思います。

津富委員 企業等が入っていて非営利活動に関わっているのは読みにくくて。こういった「まちづくりに関わるすべての方」の事です。読みやすいんですけど。

事務局 企業等は企業を支援するような世の中ということなのですが。

津富委員 そうなんです、文章として企業って入ってるのに非営利活動って読みづらくて。

事務局 分かりました。ありがとうございます。

遠藤委員 「自治会」って入ってもいいんじゃないですか。

大西会長 入っていいと思いますよ。いかがですか、ここは入れるというご意見で。

事務局 ありがとうございます。

遠藤委員 自治会って悪いものじゃなくて、私は自治会に入っていますけど、好む好まざるに関わらず、とにかく参加することによって、自分の知らなかったつながりってものを分っていくわけですから、その存在自体が悪いとは言わない。

大西会長 どうしましょう、自治会と NPO との関係を柱の中に入れるのか、それとも新しい柱として作っていくのか、今まである中に盛り込んでいくかどうか、この辺りはいかがでしょうか。施策の柱のどこに具体的な施策として盛り込むとしたらどの辺りがいいですかね。

津富委員 NPO と地縁組織をつなぐ取り組みってすでに書いてありますね。8 番。

大西会長 ここでもう一步踏み込んだ意見が先程出ていましたけど、これでいいですか。つなぐという表現で。ここは協議会では意見だけだして、こっちは事務局の方で詰めをしてもらいますが、意見としてつなぐという表現で大丈夫でしょうか。

津富委員 さらに入れるならもっといろんなものがあるよということですよ。

大西会長 そうですね。

山本副会長 再構築に近い。

津富委員 例えば「地域に根ざした市民活動をつくる取り組み」とかそういうことですかね。例えばですよ。

「交流の場づくり」で想定しているのはネット上のお話は、セットだと思っていて、リアルで会ったことがない人がネットだけで繋がるっていうのは考えづらくて、だからリアルな場と SNS、Facebook なんかもいいですけど、セットにした活動をされれば、今多くの団体がすでに始まっているとは思いますが。これでいいと思います。

大西会長 私が感じたのはこの「交流の場づくり」という表現がはたしていいのかわ
どうか。もうちょっとさっきの話ですと、たとえば鎧を脱ぐとかですね。

場としてもうちょっと、交流の場づくりだと今までもたぶんあったで
しょうし、イメージが湧きにくいんですけど、セカンドキャリアとして、
鎧を脱ぐという表現がいいかわからないんですけど、他にないでし
ょうかね。

津富委員 ヒントとして、ここには入らないと思いますけど、最近よく流行って
いるのはサードプレイスって言葉ですよ。それを入れるのは難しいと
思いますけど、自分にとって第三の場が必要だっていうか、子どもだと
学校でも家でもない、みたいなことだけど、そういうところが地域に求
められているのではないのでしょうか。

山本副会長 今日、増田委員がご欠席で残念なんですけど、それこそカフェ、スター
バックスさんが第三の場をコンセプトにしてできたカフェってことで有
名なんですけど、どのカフェも第三の場は若い方にはわりとスタバさん
のおかげで。

小林委員 みなさんのお話を聞いていて、今一つ分らなくなっているところがあ
るんですけど、この市民活動っていう風になっている言葉があるんで
すけど、これは市民活動、市民活動団体っていうのと個人レベルのもの
と組織レベルのものがあると順番の話でもなってくると思うんですけど、
たとえば最初どこかで知り合っって個人で問題意識を持ってそこから仲間
を募ってグループになったり組織になったり、それが多分最初に山本さ
んが仰ったループとかそういうのがふたつの事例になってくるのかなと
思うんですけど、その中で「知らせる場」と意味合いが違ってくる
のかなと思うんですけど、今自分がここに参加してての問題意識とし
ては、一次とか二次とかの段階で、色々な施策をする中で、市民活動、あ
るいは市民団体の芽がいっぱいできてきたよ。

でも、やっぱりその成長にばらつきがあるよね。もう少し成長できる
ような仕組みが必要なんじゃないかっていうことで話をしているのかな
一って思っていたので、市民活動団体が成長できるような仕組みづくり、
その中の私として一番期待したいのは「知らせる」とかっていうような
情報を発信するっていうものがここにあるといいなって思うんですけど、
みなさんの中で市民活動が発芽する前の段階のものなのか、ある程度

市民活動団体を成長させるための知らせのものなのかでちょっと意味合いが変わってくるかなと。

その辺の市民活動とか、市民活動団体とか、この辺で言うのは、ほぼ同義かもしれないですけど、どうなんですかね。

で、施策の方を見ると、基本的に市民活動じゃなくて組織を支援するようなものが多いかなって思って。その辺りが多少こう分けてというか、二つ次元をわけて議論してもらった方がいいのなって。

大西会長

山本副会長の方から最初の時点で上の（１）と（２）、下の（３）と（４）の質が違うというご指摘がありました。特に４ですけど、これは私の理解だと「最初のきっかけづくり」というイメージを捉えていたんですが、ただ、そのイメージづくりか、それとも活動されている団体さんが、両方入るようなものでいいと思うんですね。学ぶ、遊ぶ、発信するといったすべて入るようなキャッチフレーズ、知らせるとか遊ぶっていう、非常に重要なものだと思うんです。

遊びの感覚で入ってくるというものも入るようなキャッチフレーズが、こういう場作りに以外に何かないか。サードプレイスっていう言葉もそうですが、皆さまの言葉であれば。昔でいうと「真似する」と「学ぶ」で「まねぶ」とか言ったみたいに造語でもいいと思うんですが、何かないでしょうかね。このままでいいというご意見であればいいと思うんですけど、ただ、詳しい場合はもう少しはっきりしたほうがいいと思うんですね。メッセージとして。

小林委員

自分達で活動している団体からすると、「交流の場」じゃあないかな。

山本副会長

例えば、黒田委員のご専門だと思うんですけど、すでに交流の段階のところと、もうちょっとインキュベートして次の段階にどんどん脱皮する力がその力がほしいっていう両方のニーズがきっとあると思います。

大西会長

事務局にお伺いします。４本の施策が出てますが、これを小見出しつけてわかる事は可能なんですか？

例えば、これから入ってこようとしている人達に下の３と４とか、４も今は同列に並んでいますけど対象が違うので、それを施策の柱というレベルで、違いをつけることが可能ですか？

事務局

柱は例えば４つ置きまして、その下に柱を支える、もしくは柱の上にも

う2本ずつ持っていくとか、皆さまのご意見で変えられます。

見せ方で、それは変わってくるのかなって思いますが、柱が4つあって、その見せ方次第でより分りやすくなると思っています。

大西会長 例えば想定される対象を変えて書き込んでみたりってことですね。それでそういう追加情報があれば、誤解というかそういうのがなくなると思うんですが、あともうひとつの循環ですね、循環のイメージをどこかにいれていただくということでかなり4本の柱を誘起的につなげていくことができる。

やはり4本の柱ですね、4本目のキャッチフレーズは今のままですと、この「交流の場づくり」・「知らせる」ということになります。

津富委員 先程、事務局から言われたもので、「知り合う」はどうですかってちらっと言われたんで、買えちゃうと両方の意見がもったいないので、ごまかしですけど「知らせる／知りあう」とかどうなんですかね。

山本副会長 さっきおっしゃった「出会う」も。

津富委員 完全に1つにしなければ実際ほうか的な段階もあれば、動いている団体もあるので、両方やらないとしょうがないと思います。

大西会長 わかりました。そうですね、この辺りのネーミング等については、また一度、事務局との間で詰めさせていただいて、その後またみなさんに一度投げして、次回の協議会で微調整するということで。

日詰委員 細かいことなんですけど、1番左側の地縁組織の話があったんですが、これは旧静岡市内は町内会、清水の方は自治会って言ってますよね。両方の使い方をしていますよね、静岡市の場合。

事務局 今、町内会が自治会に名前を改名しつつあります。行政が使うときには「自治会（町内会）」としています。

黒田委員 さっきの津富委員がおっしゃっていた、最初の目指すところって非営利活動って表記私も気になっていて、さっきおっしゃっていたように自治会とかにいれられればいいと思うんですけど、「静岡市を良くする活動にかかる全てのもの」にするとか、そのような形にさせていただいたほうが非営利活

動ってわざわざ難しい言葉使う必要はないなど。

企業も確かにボランティアとかいろいろやっていますけどね。私も非営利活動って言葉が気になったのと、「知らせる」ってところが重要なところはみなさんにまたお伺いして、やっぱ情報っていうことだと思いますので、これから作る人、あるいはいまやってる方をよりよくする人も全てだと思うんですけども、これ順番とかもそうですが、雪だるまみたいに転がっていくようなイメージにさせていただいた方が継続的なイメージがあるのかなと。柱は悪くない、言葉が何がいいのかっていう問題はありますけど、そのこのところと、具体的な施策をもうちょっと落とし込まないといけないっていうのは、私自身は啓発が必要で、こんな簡単だよとかこんなことやってるよってもっともっと身軽に教えてあげないと、あるいは企業とか一般市民がこんなことがあるなら参加してみよう、俺らも参加してみようっていうような自発的な、あるいは企業なんかはお金出してみようとか、それらがここに書いてありますけど、それをわかりやすくしていただいたほうがいいなど。

NPOとか非営利という言葉はやっぱり難しいと思いますから、そこはもう少し「わかりやすく気軽に」っていうところが出るといいな思いました。

事務局 検討します。

大西会長 ありがとうございます。(4)の今黒田委員もおっしゃった広報のあたり強化もそうですが、この議論で出ました駅であるとか観光地であるとか、森であるとか色んな場を活用していくということも政策の中にいれていただきたい。それでは本日の議論を踏まえて、事務局の方で答申の案を取りまとめるお願いをして、また次回の協議会で最終的な調整をさせていただきたいと思います。

事務局 事務連絡

・次回(第2回)市民活動促進協議会は、平成26年5月26日(月)13:30からの開催を確認

(以上、会議終了。)